

第Ⅱ章. 春日山原始林の現況と課題

1. 現況

1-1. 位置等

春日山原始林は、奈良盆地北東部、奈良市中心部東方大和高原と盆地周辺の丘陵との境界に位置する。また、大阪、京都方面より、ともに20~40kmの距離に位置している。

春日山原始林への到達手段として、鉄道は大阪方面からJR大和路線と近鉄奈良線、京都方面からはJR奈良線と近鉄京都線が走行している。道路は、大阪方面からは奈良市内までの有料道路として第二阪奈有料道路、京都方面からは京奈和自動車道及び国道24号などが整備され、大阪、京都と幹線道路によるネットワークが図られている。奈良市内から春日山原始林までは、国道369号、国道169号によるアクセスが可能である。



図6 位置

春日山原始林内を通過する有料道路として、若草山、春日山、高円山を結ぶ奈良奥山ドライブウェイ(全長約13km)が整備されている。なお、春日山原始林内を通過する箇所(奈良奥山コース)については、自然環境への影響を配慮して未舗装道路区間となっているとともに、北側より南側への一方通行規制が行われている

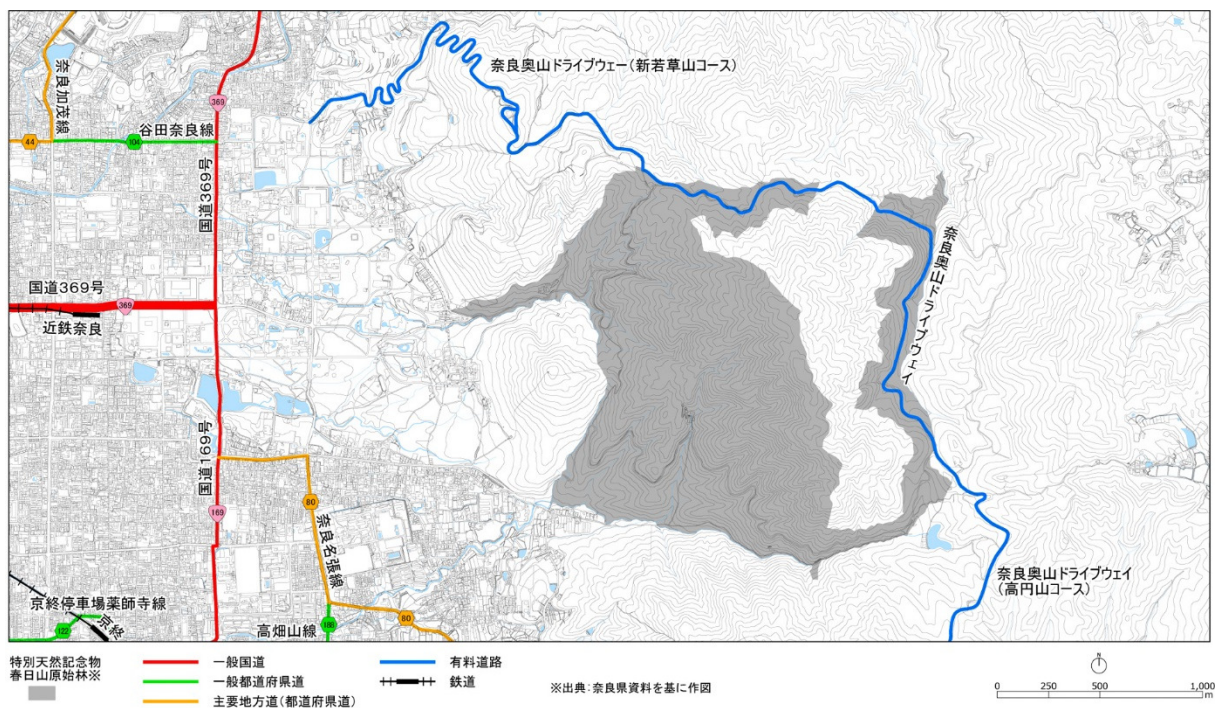


図7 交通網

1-2. 関係法令

特別天然記念物春日山原始林指定区域及びその周辺の森林は、風致地区及び歴史的風土特別保存地区、保安林、名勝奈良公園等の指定による風致景観等の保全が図られている。

(1) 風致地区

奈良公園一帯は、都市計画法ならびに奈良県風致地区条例に基づく「春日山風致地区」（約2,801.8ha）に指定（昭和12年（1937）指定、昭和40年（1965）変更）され、春日山原始林及びその周辺の森林の風致景観保全が図られている。

「奈良県風致保全方針」において、春日山原始林指定区域内はすべて「春日山風致地区」のゾーン1（保護地区）に指定され、建築物等の形状や色彩の規制が行われている。

春日山風致保全方針

1. 地区の概況

奈良盆地の東端を形成する大和青垣の山並みと春日断層崖による「青垣」といった美しい自然景観の保全を念頭におき、東大寺、興福寺、春日大社といった国宝・重要文化財の建築群と周辺の緑地や山並みへの眺望等、奈良の重要な景観を維持・保全していく。また、山並みに緩く連なる市街地や田園・果樹園等の農村地域の風景といった、奈良全体のイメージを構成する景観を保全するために、緑地保全、建築物の意匠形態に配慮する。

2. 地区の風致特性

- | | |
|------------|--|
| (1) 風致構成要素 | 自然保全+歴史保全+市街地育成型 |
| (2) ランドマーク | 遠景：春日山、若草山、高円山、原始林
中景：奈良公園（東大寺、興福寺、春日大社等）
近景：奈良公園（東大寺、興福寺、春日大社等） |
| (3) 主な視点場 | 登大路、国道169号、飛火野、若草山 |

3. 地区の維持・創出すべき風致の内容

- | | |
|----------------|--|
| (1) 保護すべき要素 | 自然：春日山原始林を含む森林
歴史：東大寺、興福寺、春日大社等の史跡及びそれと一体となっている緑地 |
| (2) 維持・保全すべき要素 | ・春日山を中心とする山並みの稜線（遠景）
・青垣を形成する急斜面の緑地
・奈良公園周辺のまちなみ（近景）
・旧集落の一体感あるまちなみ（近景） |
| (3) 育成すべき要素 | ・歴史的景観との調和（遠景としての屋根並み）
・背景となる緑地との調和（遠景としての色彩、緑化による一体感） |

4. ゾーンごとの建築物等の修景に関する方針

○ゾーン1（保護区域）

- 【概況】・東大寺、興福寺、春日大社や若草山、高円山及びそれらを取り囲む緑地、点在する文化施設等からなるゾーンである。
- ・世界的な歴史遺産と自然性の高い緑地からなる、奈良を代表する風致であり、現況の保護を今後も図ることが必要である。
- 【方針】・原則的に現況を凍結的に保全する。
- ・建築物・工作物の建て替え等については歴史的景観を保全するため、意匠形態等現況を踏襲し伝統的和風様式のものとする。
- ・工作物についても自然材での仕上げあるいは伝統色による彩色等周辺との調和を図る。
- ・樹林については管理・維持目的以外では伐採は行わないものとする。樹林内あるいは樹林に接する工作物等については、近・中景で見ても高さや仕上げにおいて森林の中で目立たないものとし、周囲に極力緑化を施す。

（以下略）

出典：『奈良県風致保全方針・審査指針集』

(2) 歴史的風土保存区域

奈良公園を含む一帯は古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法に基づく歴史的風土保存区域春日山地区（約 1,743ha）に指定（昭和 41 年（1966））され、そのうち春日山原始林は全域が歴史的風土特別保存地区となっている。

奈良市歴史的風土保存計画（抜粋）

地区別の歴史的風土の特性に応ずる行為の規制の大綱は次のとおりとする。

(1) 春日山地区

本地区の歴史的風土維持保存の主体は、春日大社、興福寺、東大寺等の歴史的建造物と一体となる奈良公園の自然的環境の保存にあり、背景となる春日山、御蓋山、若草山等の丘陵とその陵線における建築物その他の工作物の新築等、土地形質の変更、木竹の伐採等の規制に重点をおくものとする。また、春日奥山周遊道路沿道の石仏等の歴史的資産と一体となる原始林については、森林美の保存に重点をおくものとする。

出典：『奈良市歴史的風土保存計画』

(3) 名勝奈良公園指定区域

奈良公園は、優れた名勝地として大正 11 年（1922）の史蹟名勝天然記念物法（現、文化財保護法）により国の名勝に指定されて以降、文化財としての保存が図られている。

「名勝奈良公園保存管理・活用計画」（平成 23 年（2011）3 月策定）では、名勝奈良公園の山林部のうち、春日山原始林の区域を「春日山原始林ゾーン」として、保存管理・活用の基本方針ならびに個別要素の保存管理・活用の主な考え方を定めている。

名勝奈良公園保存管理・活用計画（抜粋）

2-2. 区域毎の本質的価値を構成する要素と保存管理・活用の主な考え方

(15) 春日山原始林ゾーン

2) 区域の保存管理・活用の基本方針

特別天然記念物に指定された都市近郊の貴重な原生的自然であるとともに、奈良公園の眺望景観を構成する春日山原始林の保全を図る。

3) 個別要素の保存管理・活用の主な考え方

自然的要素に関わる考え方

- ・シイ、カシを中心とした原始林の現状の保全を図るため、シカの食害に対する方策の検討を継続して実施する。
- ・台風による倒木跡地や枯損木跡地等の風穴を防ぎ、自然な状態で極相林であるコジイ林への遷移を誘導する。
- ・ナギ、ナンキンハゼ等の侵入種の分布拡大による、原始林の種組成の変化、多様性の劣化を防ぐために、適切な除伐等の保全管理を行う。
- ・春日山原始林を火災から守るために、周辺地域を含む防火のための方策を検討する。
- ・春日山原始林の生態系および風致景観を損なう樹木の植栽は行わない。
- ・公園区域拡大時の主要な名所として挙げられる鶯滝の水環境（水質及び水量、生態系）の保全を図る。

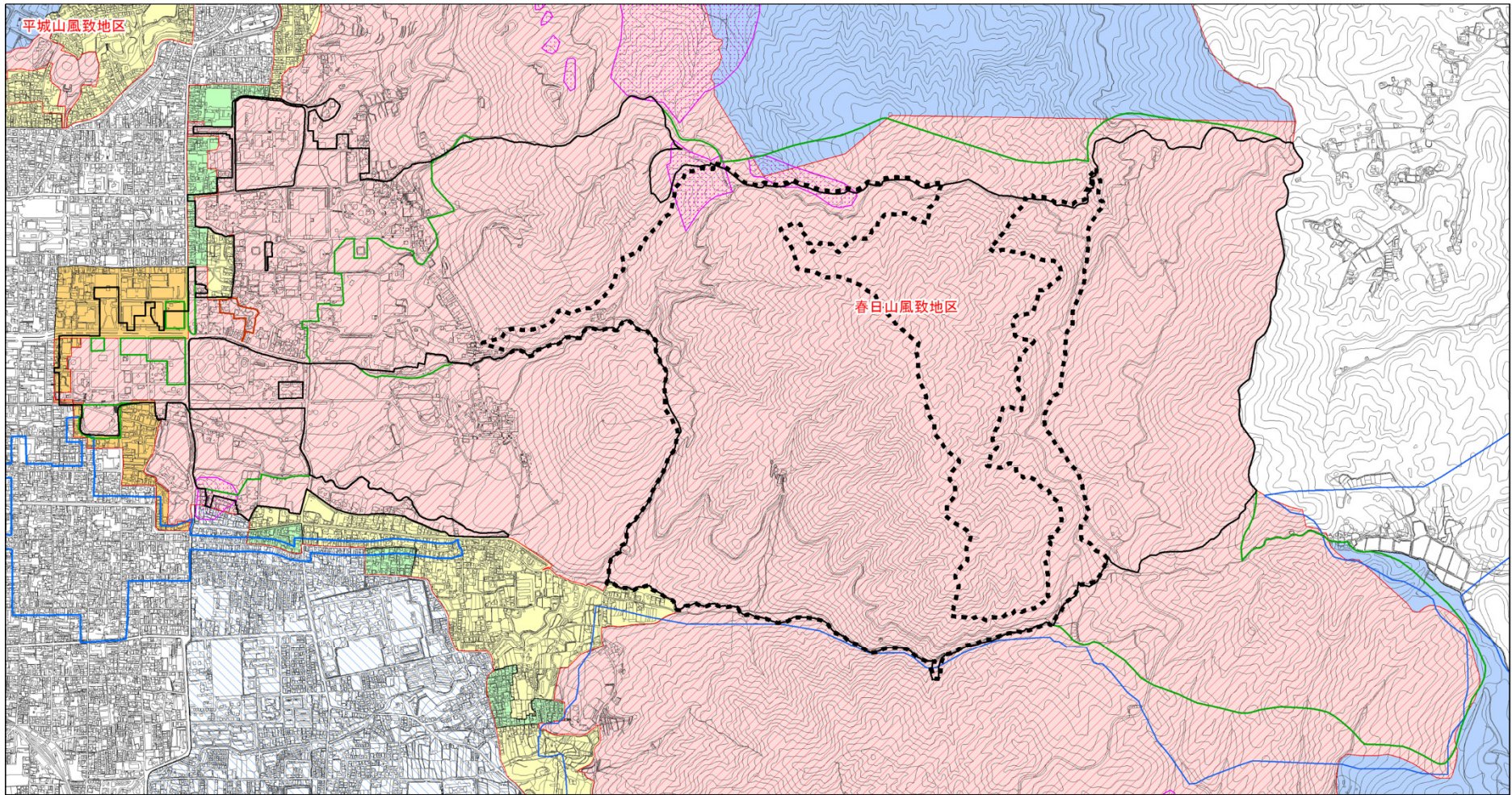
歴史的・文化的要素に関わる考え方

- ・地下の埋蔵される遺構（香山堂跡）は、当地の歴史を伝える要素として現状の保存を図る。
- ・妙見宮、石仏等の古くから親しまれてきた歴史的・文化的要素について、春日奥山周遊道路沿道の原始林と一体となる風致を形成するものとして適切な保全を図る。

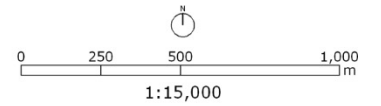
その他要素に関わる考え方

- ・春日奥山周遊道路に由来する自動車の排気ガスや粉塵などの影響の軽減を図りながら、森林生態系の保全を図る。

出典：『名勝奈良公園保存管理・活用計画』



- | | | | |
|--|--|--|--|
| <p>名勝奈良公園※
 奈良公園</p> <p> 特別天然記念物春日山原始林</p> | <p>風致地区</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1種風致地区 第2種風致地区 第3種風致地区 第4種風致地区 第5種風致地区 | <ul style="list-style-type: none"> 歴史的風土特別保存地区 歴史的風土保存区域 自然公園地域(大和青垣国定公園) 奈良公園都市計画決定区域 吉城園都市計画決定区域 | <ul style="list-style-type: none"> 保安林 奈良町都市景観形成地区 屋外広告物禁止区域 |
|--|--|--|--|



※出典: 奈良県教育委員会編『奈良県史跡名勝天然記念物集録1』を基に作図

図 8 法規制状況

1-3. 特質

春日山原始林は、「生態的特質」、「文化的特質」、「景観的特質」のそれぞれが密接に関係しながら価値を維持しており、その価値は広く内外に認められている。

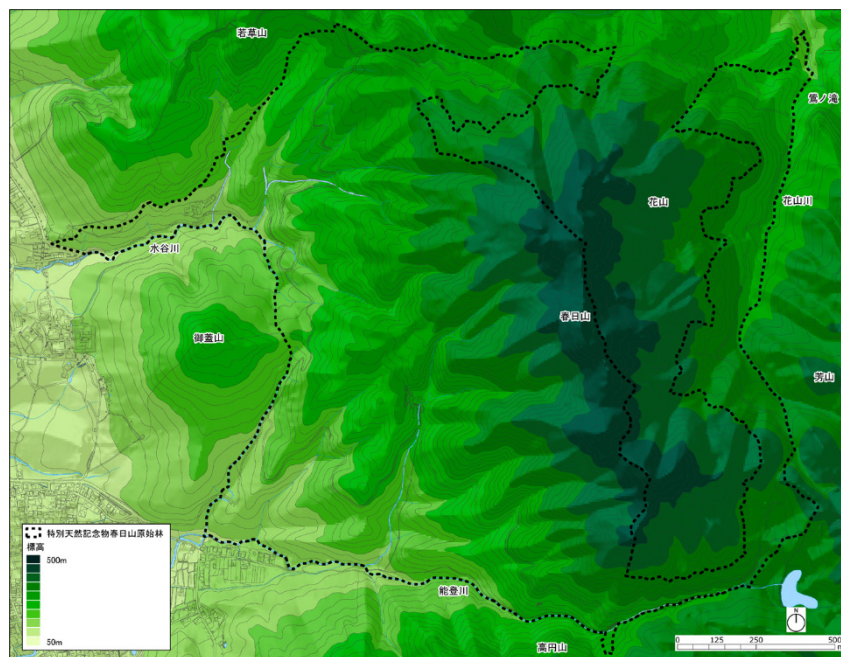
(1) 生態的特質

1) 地勢

① 標高

春日山原始林の大半は、春日山を中心とする南北に走る峯の線より西に面する傾斜地で形成され、東は花山川で芳山と、西は御蓋山と隣り合う。また南は能登川で高円山、北は若草山および民有林と接する。春日山原始林の標高は、西端部で標高 100m 以上であり、最高所は春日山(496m)である。標高別の構成比をみると、「300m 以上 400m 未満」(45.5%)に位置する箇所が最も多く、次いで「200m 以上 300m 未満」(31.6%)に位置する箇所が多くなっている。

なお、西田(平成 13 年(2001))は、御蓋山、若草山、春日山は地形的な特徴が奈良の景観と切っても切れない関係にあり、このことが世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産として「春日山原始林」が位置づけられている所以であると評価している⁴⁵。



出典：奈良県資料より作図

図 9 標高

表 6 標高別の構成比

標高	構成比
100m以上200m未満	7.4%
200m以上300m未満	31.6%
300m以上400m未満	45.5%
400m以上500m未満	15.5%
計	100.0%

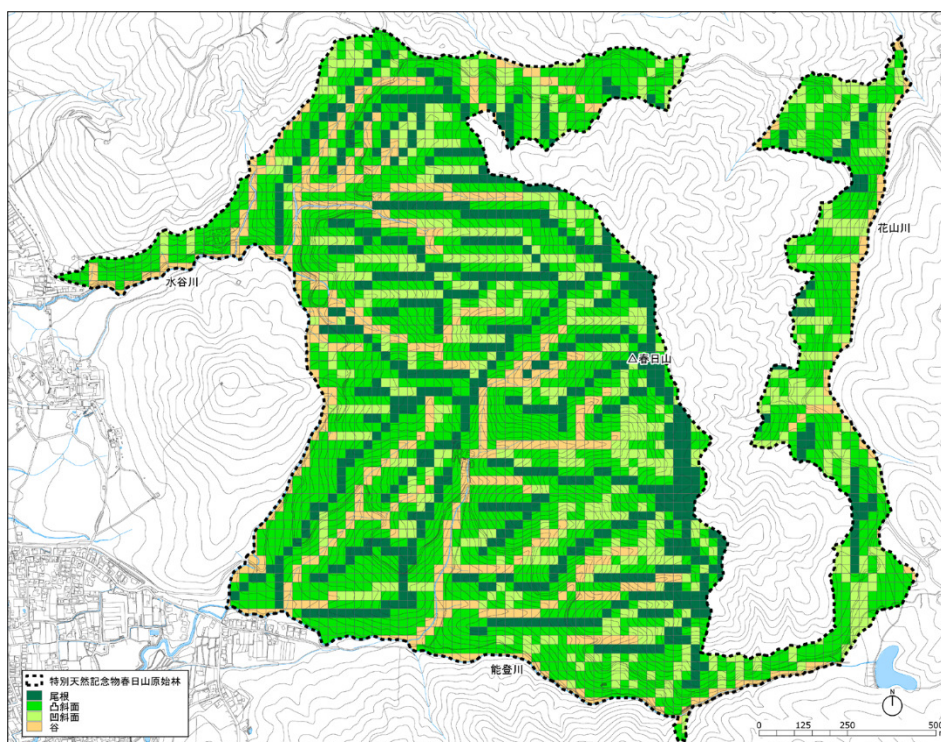
出典：構成比は GIS 計測

⁴⁵ 西田史朗「世界遺産・春日山原始林－地形と地質－」(『関西自然保護機構会誌 23 (2)』平成 13 年(2001), 111-125 頁)

②地形

春日山原始林の地形は、水谷川、能登川、花山川等の河川が上流に向かっていていることから、山麓から山頂にかけて谷が掌状に発達している。また、山頂付近を南北方向に走る尾根を中心に、山頂から山麓にかけて西方向に尾根が掌状に発達している。このように谷と尾根が複雑に入り組んだ地形となっており、春日山原始林の地形は、標高の低い割合に起伏が多く複雑な状況になっていると評されている⁴⁶。

なお、地形別の構成比をみると、「凸斜面」(49.6%)の箇所が最も多く、次いで「尾根」(20.0%)の箇所が多くなっている。



出典：奈良県資料より作図

図 10 地形

表 7 地形別の構成比

土壌	構成比
尾根	20.0%
凸斜面	49.6%
凹斜面	17.2%
谷	13.2%
計	100.0%

出典：構成比は GIS 計測

⁴⁶ 奈良県教育委員会『特別天然記念物春日山原始林緊急調査報告書』昭和50年(1975),97頁